

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月15日

【四半期会計期間】 第67期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 ヤマシンフィルタ株式会社

【英訳名】 YAMASHIN-FILTER CORP.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 山崎 敦彦

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市中区桜木町一丁目1番地8

【電話番号】 (045)680 - 1671(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員 井岡 周久

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市中区桜木町一丁目1番地8

【電話番号】 (045)680 - 1671(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役専務執行役員 井岡 周久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第66期 第2四半期 連結累計期間	第67期 第2四半期 連結累計期間	第66期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高 (千円)	6,563,540	9,556,086	14,587,326
経常利益又は経常損失() (千円)	60,772	876,334	135,486
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主帰属する 四半期純損失() (千円)	152,360	328,420	750,570
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	150,436	304,945	842,641
純資産額 (千円)	17,917,128	20,824,193	20,682,481
総資産額 (千円)	21,806,988	27,740,294	28,191,493
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	2.20	4.60	10.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	4.52	10.57
自己資本比率 (%)	82.0	75.0	73.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	222,021	438,658	87,254
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,904,675	2,058,639	4,399,449
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	837,319	1,012,503	3,212,542
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	5,261,585	4,565,818	7,197,536

回次	第66期 第2四半期 連結会計期間	第67期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	1.00	1.68

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ(当社及び当社の関係会社)が判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間(2021年4月1日～2021年9月30日)における世界経済は、ワクチン接種の進展により各国で経済活動が再開されるなか、新型コロナウイルスの感染再拡大の懸念など依然として先行きの見通せない状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である建機用フィルタ事業における建設機械市場においては、新型コロナウイルスの影響により停滞していた各国経済の回復に向けたインフラ投資や資源需要増に伴い、建機の稼働時間の顕著な増加と新車需要の急激な回復により、当第2四半期連結累計期間における当社の売上高は大幅に増加いたしました。しかしながら利益面では、世界的なコンテナ需要の急増に伴う輸送コストの増大や海上輸送の遅延に伴う航空費用の発生及び原材料価格の高騰が増益幅の減少要因となりました。

また、当第2四半期連結累計期間において、当社グループは、引き続きロングライフのフィルタ製品やタンク内の気泡を除去するエアレーション技術、フィルタの汚染度や交換頻度を感知するセンサ技術を搭載したフィルタ製品の主要得意先への積極的な提案を進めており、各建機メーカーの新機種への製品供給が暫時開始されております。

さらに、主要市場である北米市場においては、世界最大手建機メーカーに対する当社の燃料用、トランスミッション用フィルタ等の新規提案・採用が進展し、中国市場においては、中国系建機メーカーへのリターンフィルタ製品を主軸とした当社製品の採用実績は増加しており引き続き建機用フィルタ事業の更なる成長が見込まれます。このような事業下で、今後ロジスティクスの正常化や原材料高騰の調整が進むに伴い、当社の利益面の改善は顕著に図られます。

エアフィルタ事業においては、ビル・工場用エアフィルタの交換需要の低迷などにより減収減益となりましたが、今後の経済活動の回復に伴うビル空調用フィルタ需要の回復や新規物件の着工件数の増加が見込まれること等により収益の改善が図られます。また、新規ロングライフであり低圧損、高捕集率のナノファイバー製エアフィルタ(製品名:NanoWHELP)や溶菌・酵素エアフィルタを製品化し、オフィスビルや病院、工場、鉄道車両等への採用に向けた取り組みを進めるとともに欧米市場でのエアフィルタ性能の規格(米国規格ASHRAE、欧州規格EN等)を取得し、海外市場の開拓にも取り組んでまいります。

ヘルスケア事業における、家庭用マスク市場においてはマスク供給量が十分な状況の中、国産品の高品質を望む需要はあるものの、安価で使い捨ての海外不織布マスクの需要が顕著であり、当第2四半期連結累計期間の売上高は低調に推移いたしました。こうした市場状況を踏まえマスク生産設備のうち、生産性が低く収益性の低下が認められた固定資産について、減損損失2億43百万円を特別損失として計上いたしました。

一方で、DS2の認定取得に伴う医療用マスク市場においては、必要とされる米国、欧州の認証(注1)の取得に時間を要しており、依然として海外製のN95マスクが圧倒的主流であることから長期的な視点で同市場の開拓を進めてまいります。

(注1)米国におけるNIOSH規格(N95)及び欧州におけるEN規格(FFP)

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は95億56百万円(前年同四半期比45.6%増)となり、営業利益は8億87百万円(前年同四半期は50百万円の営業損失)、経常利益は8億76百万円(前年同四半期は60百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億28百万円(前年同四半期は1億52百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

連結業績

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）業績について

（単位：百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
外部売上高	6,563	9,556	2,992	45.6%
営業利益又は営業損失 （ ） （利益率）	50 （ 0.8%）	887 （ 9.3%）	937 -	-
経常利益又は経常損失 （ ） （利益率）	60 （ 0.9%）	876 （ 9.2%）	937 -	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は親会 社株主に帰属する四半 期純損失（ ） （利益率）	152 （ 2.3%）	328 （ 3.4%）	480 -	-

売上高については、建機用フィルタ事業において、60.7%の増収となった一方で、エアフィルタ事業において2.8%の減収、ヘルスケア事業においては、前第2四半期より新たな事業として開始した業績貢献により全体で15.4%の増収となりました。

営業利益については、建機用フィルタ事業において、世界的な輸送ロジスティクスの混乱による海上輸送費や航空運賃といった物流コストの継続的な高騰や、原材料価格の高騰により減益となる影響がある一方で、売上高の大幅な増加に伴い、9億37百万円の増益となりました。

経常利益については、営業利益の計上により9億37百万円の増益となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益については、ヘルスケア事業において、生産性が低く収益性の低下が認められた固定資産について、減損損失2億43百万円を特別損失として計上したことや、エアフィルタ事業において繰延税金資産の取崩し1億4百万円を計上したこと等により4億80百万円の増益となりました。

事業セグメント別の売上高と営業利益

当社は2020年9月より合成高分子系ナノファイバーを活用した「究極のヤマシン・フィルタマスク」シリーズ製品をドラッグストアチェーン等に対して本格的に量産供給を開始したことに伴い、前第2四半期連結会計期間より、新たに「ヘルスケア事業」を事業セグメントとして識別し、報告セグメントとして新設し記載する方法に変更しております。

また、「ヘルスケア事業」を新たな事業セグメントとして識別したことに伴い、各セグメントの業績及び全社費用をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社の管理部門及び一部子会社の一般管理費等の全社費用につきましては、前第2四半期連結累計期間より、所定のセグメントに配賦しない方法に変更しております。

なお、前期比較につきましては、変更後の算定方法及び区分方法により組み替えた数値を記載しております。

詳細は、「第4 経理の状況、注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

（建機用フィルタ事業）（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）業績について

（単位：百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
外部売上高	4,888	7,858	2,969	60.7%
営業利益 （利益率）	427 (8.7%)	1,851 (23.6%)	1,424	333.2%

売上高については、主要得意先各社の生産活動が各国で再開され、建機の新車生産台数の増加、及び公共事業投資の増加に伴う建機の稼働時間、交換需要の増加により60.7%の増収となりました。

営業利益については、世界的な輸送ロジスティクスの混乱による海上輸送費や航空運賃といった物流コストの継続的な高騰や、半導体をはじめとした原材料価格の高騰により減益となる影響がある一方、売上高の大幅な増加に伴い、333.2%の増益となりました。

（エアフィルタ事業）（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）業績について

（単位：百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
外部売上高	1,288	1,251	36	2.8%
営業利益 （利益率）	87 (6.8%)	11 (0.9%)	75	86.5%

売上高については、テレワークの普及に伴うオフィスビル等の稼働率低下の影響により主力製品であるオフィスビル向けの交換用フィルタ等の需要減少に伴い、2.8%の減収となりました。

営業利益については、売上高の減少、セールスマックスの影響により、75百万円の減益となりました。

（ヘルスケア事業）（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）業績について

（単位：百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
外部売上高	386	446	59	15.4%
営業利益 （利益率）	106 (27.5%)	236 (52.9%)	342	-

ヘルスケア事業については、新たな事業の開始に伴い、前第2四半期連結累計期間の経営成績は2020年7月から9月の3か月の業績を記載しております。

家庭用マスク市場においては、安価で使い捨ての海外不織布マスクの需要拡大が顕著であり、当第2四半期連結累計期間の売上高は低調に推移いたしました。また、マスク量産体制の整備を進めるなか、全自動化ラインの導入により当第3四半期以降大幅な原価低減が可能となる見込みですが、当第2四半期連結累計期間においては、製造工程の確立は途上段階であり、製造原価の低減が十分に図れなかったことにより営業損失となりました。

(2) 財政状態の状況

資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末比15億16百万円減少(前連結会計年度末比9.9%減)し、138億6百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金が26億31百万円減少(前連結会計年度末比36.4%減)した一方で、商品及び製品が5億88百万円増加(前連結会計年度末比32.3%増)、原材料及び貯蔵品が5億19百万円増加(前連結会計年度末比44.1%増)したことによるものです。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末比10億65百万円増加(前連結会計年度末比8.3%増)し、139億33百万円となりました。その主な要因は、建設仮勘定が14億16百万円増加(前連結会計年度末比50.7%増)したことによるものです。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末比3億53百万円減少(前連結会計年度末比6.4%減)し、51億86百万円となりました。その主な要因は、短期借入金が6億円減少(前連結会計年度末比100.0%減)したことによるものです。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末比2億39百万円減少(前連結会計年度末比12.2%減)し、17億29百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が2億1百万円減少(前連結会計年度末比13.2%減)したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比1億41百万円増加(前連結会計年度末比0.7%増)し、208億24百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が1億14百万円増加(前連結会計年度末比1.4%増)したことによるものです。

(3) キャッシュフローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前第2四半期連結累計期間末より6億95百万円減少し、45億65百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、4億38百万円(前年同期は使用した資金は2億22百万円)となりました。

その主な内訳は、税金等調整前四半期純利益6億18百万円、仕入債務の増加4億39百万円、減価償却費の計上4億22百万円、その他3億70百万円、減損損失2億43百万円あった一方で、棚卸資産の増加11億円、売上債権の増加4億22百万円があったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、20億58百万円(前年同期は使用した資金は19億4百万円)となりました。

その主な内訳は、有形固定資産の取得による支出20億32百万円があったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、10億12百万円(前年同期は使用した資金は8億37百万円)となりました。

その主な内訳は、短期借入金の返済6億円、長期借入金の返済による支出2億3百万円、配当金の支払2億3百万円があったこと等によるものです。

(4) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題

1. 経営方針

当社グループの経営理念は「仕濾過事」(ろかじにつかふる)であります。

「仕濾過事」(ろかじにつかふる)には、フィルタビジネスを通じて社会に貢献するという意思が込められており、当社グループは、この不変のDNAを通じ、フィルタビジネスを通じて「環境」、「空気」、「健康」をテーマにESG等の社会的課題解決に取り組み、コーポレートサステナビリティの強化に努めてまいります。

2. ESGへの取り組み

昨今、企業に対する社会からの期待や責任は多岐にわたり、企業が果たす役割の重要度はますます高まっています。当社グループは、1956年創業以来、経営理念として「仕濾過事」(ろかじにつかふる)を掲げ、お客さまやビジネスパートナーに対してはもちろん、国や地域、自然や地球環境に対してもよい関係をつくり、社会的な責任を果たしてまいります。この理念は2015年、国連にて採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の考え方も合致しています。社会を構成する一員として、企業に対しても大きな期待が寄せられている中、当社グループはサステナビリティの視点を踏まえた経営を促進するため、組織体としてESGプロジェクト「YSS(Yamashin Sustainable Solutions)」を立ち上げました。同プロジェクトを通じ、経営理念である「仕濾過事」(ろかじにつかふる)の具現化、技術力を生かした新たな価値創造と、脱炭素、TCFD、再生可能エネルギー、資源循環といった社会課題の解決を通じ社会に貢献してまいります。

3. 対処すべき課題

当社グループは、経営戦略上の中長期的な目標として、「建設機械フィルタの専門メーカーから総合フィルタメーカーへの飛躍」-Yamashin Paradigm Shift- を掲げており、既存事業である建機用フィルタビジネス、エアフィルタビジネスの拡大に加え、ヘルスケアビジネス、アパレルビジネスや産業資材としての活用を踏まえた新規事業ポートフォリオの確立に取り組み、中期的持続的成長を実現するために、次に掲げる課題に重点的に取り組んでまいります。

事業ポートフォリオの拡大

建機用フィルタ事業においては、新技術や高付加価値化の実現による製品ラインナップの拡充や中国市場でのシェア拡大に加え、当社が確立した合成高分子系ナノファイバーの量産化技術を軸に、主要建機メーカーの次世代グローバルスタンダードとして、ナノファイバー製油圧フィルタの開発供給を進めてまいります。また、第2の事業セグメントである、エアフィルタ事業においては、ナノファイバー技術による差別化製品の開発に努め、海外市場も視野に積極的なM&Aを含む当該事業の拡大を迅速に進めてまいります。更には、第3の事業ポートフォリオとして、ヘルスケアビジネスに加え、アパレルビジネスや他の産業資材としての活用を踏まえた新たな事業の確立により、当社グループ全体の企業価値の向上を図ってまいります。

収益性の改善

当社グループでは、利益創出体制の確立を企図した全社的プロジェクトである「Project PAC 21」を立ち上げ、販売、生産、開発及び物流拠点の最適化を図り、グローバルサプライチェーンを強化し、主要市場における品質管理・保証体制を踏まえた製品供給機能、生産機能及び開発機能の適切な連携体制を整備することで収益性の改善を図り、アフターコロナのビジネスに対応した、メリハリのある支出・投資の実行を進めてまいります。

更には、当社が確立した合成高分子系ナノファイバーの量産化技術を活かし、高付加価値の製品の原価低減活動を推進し、それぞれの事業ドメインの収益性の向上につなげてまいります。

人材の育成強化

当社グループは、日本・欧米・アジア地域に販売会社、アジア地域に生産会社及び開発会社を子会社として擁し、グローバルに事業展開しておりますが、今後は、海外M&Aも踏まえた事業展開も想定されることから、より一層海外拠点の重要性が増すと考えております。このため、当社グループでは、日本国内のみならず海外拠点を含めたグループ全体の経営管理体制を担う有用な人材を育成・確保すべく、ダイバーシティ（人材の多様性）を踏まえた人材採用育成プログラムを新たに策定し、次世代の人材力強化に取り組んでまいります。

ガバナンスの更なる充実

当社グループは、持続的な事業成長と中期的企業価値の最大化を図ることを目的に、ガバナンス、コンプライアンス研修の拡充やフェアディスクロージャーを踏まえた情報管理の徹底等の取り組みを継続して実施するとともに、牽制機能の強化等による業務執行の適切な監督を行うことで経営の透明性と質の向上を図り、アカウンタビリティ（説明責任）をより明確に果たし、コーポレート・ガバナンスの強化に努めてまいります。

（5）経営方針、経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針、経営戦略等については、（4）経営方針、経営環境及び対処すべき課題に記載のとおりであり、重要な変更はありません。

（6）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題については、（4）経営方針、経営環境及び対処すべき課題に記載のとおりであり、重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第 2 四半期連結累計期間における研究開発費の総額は 2 億90百万円であります。

なお、当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第 2 四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	203,580,000
計	203,580,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	71,405,570	71,405,570	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	71,405,570	71,405,570		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年7月21日 (注)1	70,398	71,405,570	25,343	6,473,936	25,343	6,213,936

(注)1 譲渡制限付株式報酬の付与を目的とした新株式の有償発行による増加であります。

発行価格 720円00銭

資本組入額 360円00銭

割当先 社外取締役及び監査等委員である取締役を除く取締役 3名
 従業員のうち一定の地位にある者 27名

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社やまびこホールディングス	神奈川県横浜市港北区富士塚二丁目17番6号	24,055,950	33.68
GOLDMAN SACHS & CO. REG (常任代理人 ゴールドマン サックス証券株式会社)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号)	5,879,015	8.23
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	4,557,600	6.38
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	4,054,300	5.67
山崎 裕明	神奈川県横浜市磯子区	3,833,459	5.36
山崎 敬明	神奈川県横浜市西区	3,815,524	5.34
山崎 敦彦	神奈川県横浜市港北区	1,053,549	1.47
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	900,000	1.26
株式会社日本カストディ銀行 (信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	602,400	0.84
ヤマシンフィルタ従業員持株会	神奈川県横浜市中区一丁目1番地8	600,000	0.84
計		49,351,797	69.11

- (注) 1. 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は1,769,900株であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分に係る株式は1,739,000株、年金信託設定分に係る株式は30,900株であります。
2. 上記株式会社日本カストディ銀行(信託口)の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は3,899,200株であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分に係る株式は3,031,800株、年金信託設定分に係る株式は867,400株であります。
3. 上記株式会社日本カストディ銀行(信託口9)の信託業務の株式数については、当社として把握することができないため記載しておりません。
4. 2021年8月24日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、野村證券株式会社及びその共同保有者であるノムラ インターナショナル ピーエルシー(NOMURA INTERNATIONAL PLC)及び野村アセットマネジメント株式会社が2021年8月17日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として2021年9月30日現在における実質保有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、当該報告書の内容は、次のとおりであります。

氏名または名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番1号	7,332,935	9.31
ノムラ インターナショナル ピーエルシー(NOMURA INTERNATIONAL PLC)	1 ANGEL LANE, LONDON, EC4R 3AB, UNITED KINGDOM	106,500	0.15
野村アセットマネジメント 株式会社	東京都江東区豊洲二丁目2 番1号	2,840,500	3.98

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 71,395,800	713,958	
単元未満株式	普通株式 9,670		
発行済株式総数	71,405,570		
総株主の議決権		713,958	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式55株が含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ヤマシンフィルタ株式会社	神奈川県横浜市中区桜木町 一丁目1番地8	100	-	100	0.00
計		100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,229,536	4,597,818
受取手形及び売掛金	4,285,615	4,707,618
商品及び製品	1,823,815	2,412,258
仕掛品	21,101	20,152
原材料及び貯蔵品	1,177,010	1,696,191
その他	785,943	372,378
流動資産合計	15,323,023	13,806,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,144,997	2,027,215
機械装置及び運搬具(純額)	1,766,458	1,545,682
工具、器具及び備品(純額)	220,170	185,768
土地	3,636,821	3,636,821
建設仮勘定	2,795,111	4,211,310
その他(純額)	250,246	237,678
有形固定資産合計	10,813,805	11,844,477
無形固定資産		
ソフトウェア	284,260	258,779
その他	45,867	42,742
無形固定資産合計	330,127	301,521
投資その他の資産		
投資有価証券	1,010,092	1,002,217
繰延税金資産	462,887	488,180
差入保証金	91,126	96,167
その他	160,430	201,311
投資その他の資産合計	1,724,536	1,787,877
固定資産合計	12,868,469	13,933,876
資産合計	28,191,493	27,740,294

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,952,884	2,377,525
短期借入金	600,000	-
1年内返済予定の長期借入金	403,380	403,380
未払金	1,649,393	1,230,813
未払法人税等	239,627	281,393
賞与引当金	239,160	266,813
役員賞与引当金	-	40,809
資産除去債務	160,000	160,000
返品調整引当金	57	-
その他	295,290	425,739
流動負債合計	5,539,793	5,186,474
固定負債		
長期借入金	1,529,673	1,327,983
退職給付に係る負債	225,254	220,574
資産除去債務	1,060	1,060
その他	213,229	180,008
固定負債合計	1,969,217	1,729,627
負債合計	7,509,011	6,916,101
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,448,593	6,473,936
資本剰余金	6,188,593	6,213,936
利益剰余金	7,948,908	8,063,408
自己株式	164	164
株主資本合計	20,585,930	20,751,116
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,758	25,003
為替換算調整勘定	89,834	73,604
その他の包括利益累計額合計	72,075	48,600
新株予約権	24,475	24,475
純資産合計	20,682,481	20,824,193
負債純資産合計	28,191,493	27,740,294

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	6,563,540	9,556,086
売上原価	3,870,649	5,547,984
売上総利益	2,692,891	4,008,102
販売費及び一般管理費	¹ 2,743,028	¹ 3,120,597
営業利益又は営業損失()	50,137	887,505
営業外収益		
受取利息	317	1,358
受取配当金	358	236
スクラップ売却益	2,059	3,129
リース債務免除益	5,594	-
解約返戻金	-	3,200
その他	5,116	9,431
営業外収益合計	13,446	17,354
営業外費用		
支払利息	6,537	11,604
為替差損	13,060	13,348
その他	4,484	3,572
営業外費用合計	24,082	28,525
経常利益又は経常損失()	60,772	876,334
特別利益		
固定資産売却益	1,317	10,322
特別利益合計	1,317	10,322
特別損失		
事業構造改革費用	-	² 8,302
工場移転費用	³ 61,852	-
減損損失	-	⁴ 243,821
固定資産除売却損	62,794	16,128
特別損失合計	124,647	268,252
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	184,102	618,404
法人税等	31,742	289,984
四半期純利益又は四半期純損失()	152,360	328,420
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	152,360	328,420

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	152,360	328,420
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	176	7,244
為替換算調整勘定	1,748	16,230
その他の包括利益合計	1,924	23,474
四半期包括利益	150,436	304,945
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	150,436	304,945

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	184,102	618,404
減価償却費	336,531	422,843
減損損失	-	243,821
賞与引当金の増減額(は減少)	33,406	27,184
役員賞与引当金の増減額(は減少)	20,582	40,809
退職給付に係る資産及び負債の増減額	43,497	4,472
受取利息及び受取配当金	675	1,594
支払利息	6,537	11,604
為替差損益(は益)	19,098	7,059
リース債務免除益	5,594	-
固定資産除売却損益(は益)	61,477	5,806
工場移転費用	61,852	-
事業構造改革費用	-	8,302
売上債権の増減額(は増加)	258,893	422,891
棚卸資産の増減額(は増加)	448,357	1,100,729
仕入債務の増減額(は減少)	270,994	439,908
その他	121,733	370,346
小計	88,268	652,284
利息及び配当金の受取額	584	1,535
利息の支払額	6,415	11,607
法人税等の支払額	66,068	237,175
法人税等の還付額	-	41,924
工場移転費用の支払額	61,852	-
事業構造改革費用の支払額	-	8,302
営業活動によるキャッシュ・フロー	222,021	438,658
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,901,437	2,032,992
有形固定資産の売却による収入	2,058	10,322
無形固定資産の取得による支出	26,538	35,236
長期預金の預入による支出	11,015	-
長期預金の解約による収入	33,300	-
その他	1,042	732
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,904,675	2,058,639
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	-	203,388
短期借入金の純増減額(は減少)	520,000	600,000
社債の償還による支出	100,000	-
新株予約権の発行による収入	31,445	-
リース債務の返済による支出	41,245	5,949
配当金の支払額	207,518	203,165
財務活動によるキャッシュ・フロー	837,319	1,012,503
現金及び現金同等物に係る換算差額	24,037	765
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,939,979	2,631,717
現金及び現金同等物の期首残高	8,201,564	7,197,536
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,261,585	4,565,818

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」といいます。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来は販売費及び一般管理費に計上しておりました販売促進費等の一部については、売上高から減額しております。また、従来は売上総利益相当額に基づいて流動負債に計上していた「返品調整引当金」については、返品されると見込まれる商品及び製品についての売上高及び売上原価相当額を認識しない方法に変更しており、返金負債を流動負債の「その他」及び返品資産を流動資産の「その他」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

また、「四半期財務諸表に関する連結会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

貸出コミットメントライン契約

当社は運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行2行と貸出コミットメント契約(シンジケート方式)を締結しております。

四半期連結会計期間末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
貸出コミットメントライン総額	4,000,000千円	4,000,000千円
借入実行残高	600,000	-
差引額	3,400,000	4,000,000

なお、当該契約には下記の財務制限条項が付されております。

2020年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計額を、直近の事業年度末日における連結貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額の75%以上に維持すること。

2020年3月期末日及びそれ以降の各事業年度末日における連結損益計算書に記載される経常損益を2期連続して損失としないこと。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
販売運賃	323,298千円	477,631千円
給料及び手当	599,906	675,124
賞与引当金繰入額	156,912	163,807
役員賞与引当金繰入額	2,698	40,809
退職給付費用	27,191	30,021
研究開発費	243,905	290,989

2 当第2四半期連結累計期間において、事業構造改革の一環として人員構成の最適化を実施したことに伴い発生した費用及び損失を事業構造改革費用として計上しております。その主な内容は特別加算金でありませ

3 工場移転費用

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

当社グループは、前第2四半期連結累計期間において、国内子会社の工場移転に係る費用として、工場移転費用61,852千円を計上しております。その内訳は、次のとおりです。

場所	内容	工場移転費用(千円)
大阪府大阪市	既設撤去工事費用	28,670
大阪府大阪市	工場移設費用	33,182

4 減損損失

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

当社グループは、当第2四半期連結累計期間において、有形固定資産の減損損失243,821千円を計上しており、その内容は以下のとおりであります。

会社	用途	内訳	減損損失金額(千円)	場所
ヤマシンフィルタ株式会社	工場	建物,機械装置及び工具器具備品	243,821	佐賀県三養基郡上峰町、他

減損損失の認識に至った経緯等

当社グループは、会社別・事業セグメントを基礎に資産のグルーピングを行っておりますが、一部の資産又は資産グループについては、他の資産グループから独立してキャッシュ・フローを生み出す単位として個別にグルーピングを行っております。

上記資産については、ヘルスケア事業において、生産性が低く収益性の低下が認められた固定資産について、将来の回収可能性を検討した結果、投資額の回収が見込めなくなったため、減損損失を計上するものであります。

当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないことから、回収可能価額は零として算定しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりです。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)
現金及び預金勘定	5,544,296千円	4,597,818千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	282,710	32,000
現金及び現金同等物	5,261,585	4,565,818

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間(自 2020年 4 月 1 日 至 2020年 9 月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年 5 月19日 定時取締役会	普通株式	207,569	3.0	2020年 3 月31日	2020年 6 月25日	利益剰余金

(2) 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月 4 日 臨時取締役会	普通株式	207,687	3.0	2020年 9 月30日	2020年12月 4 日	利益剰余金

当第 2 四半期連結累計期間(自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年 5 月14日 定時取締役会	普通株式	214,005	3.0	2021年 3 月31日	2021年 6 月25日	利益剰余金

(2) 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月 4 日 臨時取締役会	普通株式	214,216	3.0	2021年 9 月30日	2021年12月 3 日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建機用フィルタ 事業	エアフィルタ 事業	ヘルスケア事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,888,874	1,288,126	386,540	6,563,540	-	6,563,540
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	818	-	818	818	-
計	4,888,874	1,288,944	386,540	6,564,358	818	6,563,540
セグメント利益又は 損失()	427,352	87,134	106,382	620,868	671,004	50,137

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない全社費用であり、主に管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は2020年9月より合成高分子系ナノファイバーを活用したヤマシン・オリジナルマスクをドラッグストアチェーン等に対して本格的に量産供給を開始したことに伴い、前第2四半期連結会計期間より、新たに「ヘルスケア事業」を事業セグメントとして識別し、報告セグメントとして新設し記載する方法に変更しております。

また、「ヘルスケア事業」を新たな事業セグメントとして識別したことに伴い、各セグメントの業績及び全社費用をよりの確に把握するため、当社の各報告セグメントに帰属しない本社の管理部門の一般管理等の他に、一部子会社の管理部門の一般管理費等の全社費用につきましても前第2四半期連結累計期間より、所定のセグメントに配賦しない方法に変更しております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建機用フィルタ 事業	エアフィルタ 事業	ヘルスケア事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,858,194	1,251,735	446,155	9,556,086	-	9,556,086
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	7,858,194	1,251,735	446,155	9,556,086	-	9,556,086
セグメント利益又は 損失()	1,851,465	11,740	236,177	1,627,028	739,523	887,505

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに帰属しない全社費用であり、主に管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失の金額は、四半期連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。当該変更による各事業セグメントに与える影響は軽微であります。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表 計上額
	建機用 フィルタ事業	エアフィルタ 事業	ヘルスケア事業	計		
減損損失	-	-	243,821	243,821	-	243,821

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			合計
	建機用フィルタ 事業	エアフィルタ 事業	ヘルスケア事業	
建機用フィルタ	7,172,666	-	-	7,172,666
産業用フィルタ	255,066	-	-	255,066
プロセス用フィルタ	430,462	-	-	430,462
エアフィルタ	-	1,251,735	-	1,251,735
ヘルスケア関連製品	-	-	446,155	446,155
顧客との契約から生じる収益	7,858,194	1,251,735	446,155	9,556,086
外部顧客への売上高	7,858,194	1,251,735	446,155	9,556,086

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失()	2円20銭	4円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失()(千円)	152,360	328,420
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	152,360	328,420
普通株式の期中平均株式数(株)	69,205,159	71,362,714
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	4円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	328,420
普通株式増加数(株)	-	1,362,741
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	第5回新株予約権 新株予約権の数 95,000個 (普通株式 9,500,000株)	-

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2021年11月4日開催の臨時取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額..... 214百万円

(ロ) 1株当たりの金額..... 3円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2021年12月3日

(注) 2021年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月12日

ヤマシンフィルタ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

横浜事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 細野 和寿

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山崎 光隆

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているヤマシンフィルタ株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ヤマシンフィルタ株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レ

ビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上